

1. 日 時 1999年3月31日(水) 12:15~12:50
2. 場 所 委員会会議室
3. 出席者 有馬委員長、藤家委員、依田委員、遠藤委員、木元委員
 (事務局等) 科学技術庁
 原子力局
 青江局長
 今村審議官
 政策課 坂田課長 中川
 原子力調査室 森本室長、板倉、村上、池亀、鈴木
 原子力安全局
 原子力安全調査室 干場室長
 資源エネルギー庁
 佐々木審議官
 国吉新型炉開発企画官
 原子力発電課 白井
 原子力政策円卓会議
 木村モデレーター、茅モデレーター、中島モデレーター
 原子力政策円卓会議事務局
 岡本、吉田、田久保
 吉舖専門委員

4. 議 題

- (1) 原子力政策円卓会議モデレーターからの提言の提出について

5. 配布資料

配付資料 原子力政策円卓会議提言

配付資料 原子力政策円卓会議(第1回~第5回)における論点整理

6. 審議事項

- (1) 原子力政策円卓会議モデレーターからの提言の提出について

標記の件について、原子力政策円卓会議(以下、「円卓会議」という。)茅モデレーターより、平成10年度に開催された5回の円卓会議からの提言について説明があった後、木村モデレーター座長より有馬委員長へ提言が手交された。

続いて本提言について、

- ・原子力委員会が原子力政策を企画・立案するに当たっては、国民の幅広いご意見を伺うことが重要である。このため円卓会議の運営に工夫を凝らしながら継続的に開催し、定着させることが望ましい。円卓会議では、エネルギー利用の側面だけでなく、原子力の広がりに対応した幅広い議論を期待したい。原子力行政が民主的な政策決定の先端を走っていることを誇りに思うとともに、本日の提言を原子力行政に反映させていきたい。
- ・エネルギーについて議論する際、化石燃料の寿命等を踏まえる必要がある。提言における第三者的立場からの評価として、どの様なものを考えているのか。
- (モデレーター) 誤解を招くおそれがあるが、例えば、米国の O T A (Office of Technology Assessment) のような行政府から独立したものが考えられる。
- ・円卓会議は公開で行われたが、モデレーター会議でも良い議論が多くあり、公開で行ってもよいのではないかと。円卓会議では、原子力ありきでなく、なぜ原子力なのかから議論を始めることが重要である。開催回数が5回と少なかった。円卓会議の議論は、いわゆる原子力の専門家のみならず、広く常識を備えた専門家の参加を得て議論を行うことが必要。反対・賛成にもいろいろな考え方があり、安易に二つの立場に分けて議論を行うと壁ができるが、この点をわきまえて議論を咬み合わせる努力がなされた。
- ・円卓会議での議論は非常に参考になった。議論が多岐にわたりがちであったが、今後は焦点が絞られた議論を望みたい。例えば地球温暖化との関連で、京都議定書の合意を遂行するのにどうすればよいのか議論して欲しい。
- ・原子力政策については、国民のコンセンサス作りが重要であり、円卓会議に期待している。

等の委員の意見及び質疑応答があり、また、

(モデレーター) 議論を深めるための時間が少なかった。円卓会議の準備において、開催期日が迫っていたため、招へい者として意見を聞きたくても、都合が合わなかった識者もいた。また、日本人はディベートが下手であり、ディベートにおいて、特に推進側のつっこみが足りなかった。

(モデレーター) 議論がかみ合わなかった点もあるが、全体として合格点に達していると思う。

等のモデレーターの意見があった後、有馬原子力委員長より、

- ・平成8年7月に開催された円卓会議に出席し、情報公開の必要性や教育の重要性について、問題提起をした。円卓会議は、原子力行政の民主的な運営を図っていく上で、大変重要な役割を果たしているものと認識している。
- ・原子力を日本のエネルギー源の中でどの様に位置付けていくべきかについて、国民の一人一人が自らの問題として考えて頂くことは、大変重要なことである。そのため、関係行政機関等が必要な情報を分かりやすく、タイムリーに提供することが必要である。
- ・原子力施設の立地地域の方々のご理解と信頼なくして原子力の開発利用を進めることは困難。委員会としても立地地域の対応について、関係機関間

の幅広い連携・協力が得られるよう努力していきたい。

- ・国民の声や動向を踏まえて、原子力について政治の場で幅広く議論していただくことは重要なことと認識。原子力委員会としても、これまで政策決定過程に国民の声を反映し、その透明性を高めるための努力を積み重ねてきたところ。近く開始する予定の長期計画の見直しのための調査審議においても、同様に努力したい。
- ・今後、原子力委員会の公聴機能の強化が必要であるが、その観点からこの円卓会議の果たす役割は重要なものである。来年度も引き続き円卓会議の開催、運営を5人のモデレーターの方々にお願いしたい。
- ・本日の提言を受けて、委員会としての正式な考え方を取りまとめたい。
- ・来年度の円卓会議に、時間があれば是非出席したい。

との発言があった。